

全日本ラリー第5戦

鎌田豊選手 (CMSC道北) 地元開催を制し2勝目!!

CMSC道北
鎌田 豊

全日本ラリー第5戦優勝記

7月8、9日の2日間スキーでお馴染みトマムの「アルファリゾートトマム」をスタートしメロンで有名な夕張市の「マウントレースイ・スキーリゾート」をゴールとする、全長300キロの'95全日本ラリー第5戦「'95ノースアタックラリー」に参戦しました。

今年は第2戦で優勝したものの、リタイヤが2回に5位が1回と、あまりパツとしない成績です。しかも今回は地元北海道開催とあって、優勝しても当然と思われてしまいます。まわりからのプレッシャーもありましたが、逆にそれをエネ



▲喜びの鎌田選手(左)。



▲地元優勝へひた走る鎌田ミラーージュ。

ルギーにしてやろうと思ひ、自分でも、優勝するんだと言い聞かせてスタート。好天に恵まれてのドライコンディションのコース状況の中、第1ステージで好スタートが切れ、第2ステージで少し追いつかれたものの、第3ステージでも一度スタート前の気持ちを思いだしスパート

結局、今年好調の田口選手を3秒離して、今季2勝目をあげることができました。

車のセッティングもうまくいっていたので、今回だけは負けたくありませんでした。正直言って地元開催有利のプレッシャーは相当ありましたが、勝ててホッとしています。

北村 (CMSC岐阜) 荒井 (CMSC群馬) 両選手で全日本ダートラリー第4・5・6戦を連勝

'95全日本ダートラリー第4戦「'95ダートトライアルin北海道」は6月17・18日北海道砂川市「オートスポーツランドスナガワ」で9クラス135台が前半戦最後の熱戦を繰り広げました。激戦区のAIVクラスは'94シリーズチャンピオンで今季も第2戦に優勝している北村和浩選手 (CMSC岐阜) が、第2ヒートのラストスタートで1分33秒448を叩き逆転。劇的な2勝目を挙げました。北村選手は「いつもどおり慎重に走りましたが逆転優勝できてうれしいです。今後の戦いが少し楽になりました」と後半戦へ新たに意欲を燃やしていました。

そして今季後半戦のスタートに当たる'95全日本ダートラリー第5戦「第17回DCCSダートトライアル」は7月16日栃木県黒磯市「丸和オートランド那須」に8クラス133台の参加で行なわれました。ランサーエボIIIが3連勝しておりランサー勢同士の優勝争いが注目されるAIVクラスは、今季まだ優勝を決めていない荒井信介選手 (CMSC群馬) が第1ヒートから快調に1分45秒82の好タイム。午後遅くなるに従って、雨が激しく、コースは完全なウェットコンディション。第2ヒートはほとんどの選手が第1ヒートより数秒遅れる状況で荒井選手が今季初優勝に輝きました。荒井選手は「後半戦どうしてもポイントが欲しかったところで、1本目のタイムで勝負が決まりちょっとラッキーでしたが、これで気分良く後半戦を戦って行ける気



がします。残り3戦がんばります」と喜びのコメントでした。

続く'95全日本ダートラリー第6戦「CCCRスーパーズプリント'95」は8月27日長野県松代町「スポーツランド信州」に9クラス135台が参加。AIVクラスは毎大会ランサーエボIIIのエントリーが目立っていますが、今回も18台中13台を占める盛況ぶり。そんな中でポイントランクのトップを走る北村和浩選手 (CMSC岐阜) は第1トライから1分36秒14のベストタイムをマーク、今季3勝目を挙げると共に有効ポイントを82に伸ばし、シリーズチャンピオンに向け、また一歩力強く前進しました。4位まではすべてCMSC勢がズラリと並び、また1~6位までをランサー勢で独占しました。



写真上左 第4・6戦優勝の北村選手の走り。写真上右 第5戦を制した荒井ランサー。写真右 荒井選手。写真下 第6戦1~3位独占CMSC勢。優勝北村、2位荒井、3位宝田の各選手。



8月26日(土) エビスサーキット(福島県二本松)

200名、87台参加の'95CMSC全国大会



開会式、外川会長の挨拶



8月26日、'95CMSC全国大会が開催されました。今年も、福島県二本松にある東北サファリパーク・エビスサーキットで開催され、全国から200名にのぼる参加者が集まりました。前回同様、千葉三菱の篠崎相談役をはじめ、全国主管販売会社の方々にもご参加いただいたの盛大な開催となりました。

当日早朝から、地元CMSC福島のメンバーと大会スタッフによる会場セッティングが行なわれ、9時から受付開始。各者車検の後、入念に慣熟歩行が行なわれて、いよいよ開会式。外川会長の挨拶の後、ドライバーズミーティングが開かれ緊張感が高まってきました。このままスタートということになるとチョット大変そうだったので、少し緊張を和らげようと参加者全員での写真撮影と、各支部毎の記念撮影。よく写っていますか!?

第1ヒートのスタートは正午から。CMSC福島

の試走後、A-II、LADYS、OPEN、A-IIIの順にスタート。いつもながら、全国大会の楽しい雰囲気なかでも、ドライバーはステアリングを握ると本能が目覚めてしまうものですね。A-IIクラスの2位争いは0.22秒差、A-IIIクラスでは1位から3位が0.73秒差という大接戦。まさに真夏のデッドヒートといった感じ。また、新設の鹿兒島支部から参加の山口選手(全日本ラリードライバー)は、ラリーアートジムカーナ車のランサー(CD5A)での参戦でしたが見事に9位入賞して鹿兒島の存在をアピールしていました。会場全体は真夏の太陽の下、明るく家族的な雰囲気なかで和やかな時間が過ぎ、ご家族連れのかたにも充分楽しめたのではないかと思います。

そして舞台は表彰式へ移り、クラス別、団体表彰の後、外川会長より「モータースポーツと云えども、究極は人、人の輪が一番大切なこと

です。その意味で、メンバーが一堂に会して、出会い、なごみあうCMSC全国大会は他に類を見ない意義ある集いです。次回も今年以上のメンバーが集まってさらに楽しみたいと思います。」との閉会の辞をいただいて第1部は幕となりました。

第2部は、恒例の牛の丸焼きが豪快な、バーベキューパーティー。開宴の挨拶、乾杯の掛け声、打ち上げ花火とともにアクセル全開のパーティーは始まりました。スポットライトに照らされた賞品を争奪するビンゴゲームはいつになく盛り上がりコースアウトもしかねない勢い。各支部同士もなごやかに歓談されていて、夏の一日は歓声と拍手と笑顔の中にとけていきました。

また、次回も皆さんと共に素晴らしい時を過ごしたいと思います。最後になりますが、CMSC福島の皆さん、関係スタッフの皆さんいろいろとありがとうございました。